

2016 年度事業報告案

1. 事業報告全般

1.1 全般

2015 年度末には累積赤字を解消することができた協会の経常収支であるが、2016 年度は会員の引き続きの減少、一部事業の収入減に加えて、当初見込みを大幅に上回った事務所移転費用の発生により約 220 万円の赤字となり、累積赤字額は約 90 万円となった。正会員と会誌購読者の減少は引き続き進行しており、今後の運営は一層の厳しさが予想される。

このような財政上の問題にも拘らず、会誌刊行事業、出版事業、普及研修事業(講習会、シンポジウム、検索技術者検定)、部会・研究会活動、受託事業等、全体的に充実した事業を推進することができた。

本年度の主な実績は次の通りである。

- ・会誌刊行事業については、前年に引き続き、会誌編集委員会の企画による特集テーマを核として、安定した定期発行を達成した。投稿規程や原稿執筆要項を見直し、2017 年 1 月 1 日付で改訂した。J-STAGE への会誌過去分 (CiNii からの移行分) の搭載は 2016 年度には間に合わず、2017 年度早々に行う予定である。会誌に関する経営上の問題を検討し、協会運営の立場から適切な方向付けをするために会誌経営委員会を新たに設置し、会誌編集委員会と密接な協力のもとで討議を進めた。
- ・研修事業については、研修委員会を中心に、西日本委員会との連携により企画・推進を行い、会員の注目するセミナー、見学会を実施した。
- ・第 13 回情報プロフェッショナルシンポジウム (INFOPRO 2016) を、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) との共催により 2016 年 12 月 1 日～2 日の 2 日間、JST 東京本部別館で開催した。特別講演、トーク&トークとも好評であったが、参加者数が伸び悩み、今後課題を残した。
- ・検索技術者検定試験については、全国 7 ヶ所の公開試験会場と 6 ヶ所の個別試験会場で実施した。2014 年度から始まった新試験での 3 回目の試験実施であった。1 級と 3 級受験者数は若干減少したが、2 級受験者がやや増加したため、全体の受験者数は昨年度より微増した。また、2015 年度に引き続き、1 級および 2 級の解答例を会誌に掲載した。
- ・部会・研究会活動については、OUG (4 分科会)、SIG (5 部会)のそれぞれの分科会、部会における活動が継続して行われた。一方 3i 研究会は、JST およびジー・サーチなどの協力のもと、第 3 期 (2016 年 7 月まで)、第 4 期 (2016 年 8 月以降) の活動が行われた。第 3 期の成果は INFOPRO 2016 シンポジウムで発表された他、2017 年度の会誌に論文が掲載される予定である。第 4 期は、第 3 期同様東京 3 グループ、大阪 2 グループが活動しており、2017 年 7 月に終了する予定である。

1.2 2016 年度役員および担当

2016 年 11 月に、2 名の副会長から相次いで辞任の申請がなされた。これについて関係者からの説明を聞き、今後の協会の運営組織を検討するため、定款 33 条 2 号に基づき 13 名の理事の連名で理事会招集の請求があり、12 月 13 日に理事会が開催された。会長と両副会長からそれぞれ事情説明があった後、両副会長の辞任を了承するとともに、会長 (兼専務理事) にも辞任を求め、了承を得た。これに伴い、定款第 23 条第 2 項により、新しい代表理事 (会長、副会長) 及び業務執行理事 (専

務理事)を理事の中から選出した。交代の時期は2017年1月2日とした。また、代表理事、業務執行理事交代に伴う理事の担当職務の変更を、2017年1月23日の理事会で行った。

下記において担当職務に期間の記載がない場合は2016年度全期間、期間が記載されている場合はその期間の担当である。

理事(東日本地区)

青柳英治	研修委員会(正)
安藤聡子	シンポジウム実行委員会(正)
長田孝治	標準化委員会、運営部会委員、専務理事(2017.1.2～)
小野寺夏生	会誌編集委員会、会長(2017.1.2～)、運営部会長(2017.1.2～)
川村 剛	運営部会委員(2017.1.23～)
佐藤京子	運営部会委員、副会長(2017.1.2～)
鈴木博道	副会長(～2017.1.1)、運営部会委員(～2017.1.1)、OUG・SIG
丹 一信	出版委員会
角田裕之	シンポジウム実行委員会(副)
時実象一	会長(～2017.1.1)、専務理事(～2017.1.1)、運営部会長(～2017.1.1)、著作権委員会(～2017.1.22)、PD委員会
原田智子	試験実施委員会(正)
藤井信栄	
松下 茂	広報委員会、著作権委員会(2017.1.23～)
望月聖子	試験実施委員会(副)
屋ヶ田和彦	3i研究会
吉井隆明	副会長、運営部会委員、表彰者選考委員長、研修委員会(副)

理事(西日本地区)

稲葉洋子	西日本委員会
谷川 淳	西日本委員会
中江貴彦	西日本委員会
山田瑞穂	西日本委員会

監事

廣谷映子	三澤一成
------	------

諮問委員(東日本地区)

上村 順一	大谷 裕	小山 憲司	田口 宣行	竹之内 禎	田中 早苗
林 和弘	百瀬 研一	藤島 嘉幸	安平 進	柳 一美	吉野 敬子
米澤 稔					

諮問委員(西日本地区)

岡 紀子	田中 邦英	永石 弓子	森 美由紀	矢崎 美香
------	-------	-------	-------	-------

1.3 会員異動

種別	2015年度末	入会	退会	増減	2016年度末
維持会員	51	2	3	-1	50
特別会員	74	0	6	-6	68
正会員	896	44	70	-26	870
準会員	7	2	0	2	9
合計	1,028	48	79	-31	997

1.4 会議開催状況

(1) 定時社員総会 ----- 1回

第59回定時社員総会および協会賞表彰式 : 2016年5月20日(金)

議題:

- ① 2015年度事業報告(案) および決算報告(案) (審議)
- ② 2016年度事業計画および予算(報告)
- ③ 事務所移転計画
- ④ 2016~2017年度役員選挙
- ⑤ 第41回情報科学技術協会賞表彰

名称	表彰者
情報業務功労賞	三澤一成氏
教育・訓練功労賞	田窪直規氏
優秀機関賞	なし
研究発表賞	なし
協会事業功労賞	津山重雄氏

また名誉会員に太田泰弘、固武龍雄各氏を推挙した。

(2) 理事会 ----- 6回 (2016/5/13, 2016/7/27, 2016/11/16, 2016/12/13, 2017/1/23, 2017/3/22)

電磁的決議 1回 (2016/05/30)

(3) 諮問委員会----- なし (2017/4/28 開催予定)

(4) 部会・委員会

委員会名	委員数	開催回数	委員会名	委員数	開催回数
運営部会	6	4	パテントドキュメンテーション委員会	6	3
会誌編集委員会	10	12	西日本委員会	13	6
会誌経営委員会	6	4	表彰者選考委員会	7	1
出版委員会	4	1	著作権委員会	8	0
研修委員会	4	4	広報委員会	4	4
シンポジウム実行委員会	11	6	標準化委員会	6	1
試験実施委員会	7	11			

2. 事業活動

2.1 会誌刊行事業

(1) 会誌編集委員会

2016年度も安定した刊行(毎月1日発行)を達成することができた。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、今年度もインフォプロの関心領域から様々な話題のトピックを取り上げることができた。特集テーマの検討に際しては、図書館分野に偏らないことを意識し、当協会の事業と関連する「分類をみつめなおす Part2」(6月号)や「特許訴訟を調べる」(7月号)を特集する一方、デジタルアーカイブの最新技術を紹介する「デジタルアーカイブを支える技術」(2月号)など、特集テーマのバランスを取ることができたと言える。

例年どおり、他の委員会と連携した特集も刊行できた。研修委員会とのコラボレーション企画として「インフォプロの仕事術」(12月号)を、そしてパテントドキュメンテーション委員会からは特集内容の企画検討、編集において全面的な協力を頂き、「特許訴訟を調べる」(7月号)を発行することができた。読者に有益な情報を届けるためにも、これらの連携企画については継続して実施したいと考えている。「インフォプロの仕事術」(12月号)では委員による座談会を実施し、仕事に関する考えや意見を率直に語り合い、それを記事として掲載することができた。「図書館員のメンタルヘルス：part 2」では短めの文章で読者が気軽に読め、実用を意識した内容のコラム記事3本を掲載した。今後も、このような従来の枠にとらわれない企画も実施していきたいと考えている。また、3i研究会報告を定期的に掲載し、研究会の活動紹介を行うことができた。

さらに、原稿執筆の手引きや投稿規定などを現状に即して見直し、2017年1月1日付での改訂を行うことができた。また、編集委員による原稿確認の手順に関する文書をまとめ、編集作業の明文化、標準化を行うことができた。

【特集】

年	号	特集タイトル
2016	4月号	歴史学の転回
2016	5月号	第12回情報プロフェッショナルシンポジウム
2016	6月号	分類をみつめなおす part2
2016	7月号	特許訴訟を調べる
2016	8月号	POPカルチャー保存機関
2016	9月号	専門図書館～公開型専門図書館のいま
2016	10月号	読書論
2016	11月号	個人情報の活用と保護
2016	12月号	インフォプロの仕事術
2017	1月号	電子書籍のいま
2017	2月号	デジタルアーカイブを支える技術
2017	3月号	図書館員のメンタルヘルス：part 2

特集原稿及び連載以外の記事としては、会員からの投稿記事を3本、書評を9本掲載した。また以下の連載記事等が掲載された。

【連載・コラム】

- ・INFOSTA Forum (継続連載中)
- ・情報分析・解析ツール紹介 (継続掲載中)
- ・インフォプロのための著作権入門 (～2016年12月号まで)

【委員会・会議開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2016-04-06	定例委員会	協会会議室
2	2016-05-11	定例委員会	協会会議室
3	2016-06-11	定例委員会・企画会議	協会会議室
4	2016-07-06	定例委員会	協会会議室
5	2016-08-03	定例委員会	協会会議室
6	2016-09-07	定例委員会	協会会議室
7	2016-10-05	定例委員会	文京シビックセンター
8	2016-11-02	定例委員会	文京シビックセンター
9	2016-12-03	定例委員会・企画会議	文京福祉センター江戸川橋
10	2017-01-11	定例委員会	文京シビックセンター
11	2017-02-01	定例委員会	文京区民センター
12	2017-03-01	定例委員会	文京シビックセンター

この他、新たに発足した会誌経営委員会に編集委員会から2名の委員が参画し、多様な視点から会誌の在り方等について検討を進めている。この中で、2018年の特集テーマ(案)を検討する際に、会誌経営委員会での議論を踏まえて「情報を探しやすい(仮)」という特集を設定するなど、具体的な影響(効果)も出てきている。また、会誌編集委員会では会誌編集協力員(現在は3名)を置いており、電子メールベースでの委員会参加や企画会議参加などで協力いただいている。このように各事業委員会等との情報共有・協議を進めることで、より多角的な視点による会誌運営と充実した内容の定期刊行が実現できるものと考えている。

(2) 会誌経営委員会

会誌経営委員会は、会誌編集委員会、事務局と連携して、会誌に関わる諸業務の健全な運営のための施策、記事構成に関する方針の作成、特集以外についての具体的な記事内容の提案、読者増加に向けての施策など、の策定と実施の監督をおこなう。当委員会は、協会事業の重要な柱の一つである会誌に関して、主に、その経営上の問題を審議し、協会運営の立場から適切な方向付けをするために新たに設置された。本委員会は、会誌編集委員会と密接な協力のもとで、運営されることが望まれることから、会誌編集委員会から委員長ほか1名が委員として参加している。また、会誌の実際の記事構成についても、会誌編集委員会がもっぱら担当する特集以外の連載記事等については、企画を提示して、事務局に指示を行うこととした。

本年度は、以下の4回の委員会を実施し、以下の問題を審議した。

(1) 会誌の編集刊行をめぐる状況の把握と当委員会のミッションの確認

協会事業における会誌刊行の位置づけと編集委員会の任務遂行状況ならびにそこにおける問題点を把握し、その上で当委員会の果たすべき役割について、討議し、合意を得た。

(2) 会誌刊行にともなう諸問題への対応

CiNiiのサービス終了とJ-STAGE搭載への移行措置とそれによる結果について評価した。また、記事の分量についての制限、PDF化における問題、などについて解決案を討議決定した。

(3) 会誌の企画に関しての提案

主に、連載企画について、アンケート結果を中心に、読者の希望を評価分析したうえで、いくつかの具体的なテーマを提示した。

(4) その他

今後の会誌刊行に伴う問題として、新たな著作権の枠組みへの対応、モニター制の導入、読者の希望への対応などについて、討議し問題の所在を認識した。

回	日付	主な議題	会場
1	6/21	当委員会のミッション確認、会誌の位置づけ確認、内規の確認、J-STAGE掲載について、会誌の特集に関して、アンケート結果検討	情報科学技術協会会議室
2	7/28	原稿料支払い基準、会誌PDFカラー化、J-STAGE利用状況、各委員からの意見・提言、他	情報科学技術協会会議室
3	9/29	会誌頁数制限、クリエイティブ・コモンズについて、J-STAGE利用状況、他	文京シビックホール会議室
4	2/20	各委員の提言まとめ、連載企画検討、アンケート評価、他	文京区民センター会議室

2.2 一般刊行事業(出版委員会)

- (1) 検索技術者検定2級テキスト『情報検索の知識と技術 応用編』を増刷した。
- (2) 時実象一氏執筆の『コピペと捏造』(樹村房より2016年11月発行)について監修を行った。

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
第1回	2016/8/18	・『コピペと捏造』出版スケジュールについて ・会誌連載記事について、書籍化の可能性を検討	情報科学技術協会事務局

2.3 普及研修事業

2.3.1 研修会・セミナー(研修委員会)

2016年度に行ったセミナーおよび見学会は下表の通り。

(研修事業全体把握のため、研修委員会企画分、西日本委員会企画分、パテントドキュメンテーション委員会企画分をまとめて一覧した)

NO	名称	会場	開催日	企画	参加者数
1	維持会員限定セミナー「インフォプロが知っておきたいミーティング技法」	東京	2016/05/25	研修	26
2	検索技術者検定3級試験対策セミナー	東京	2016/08/27	西日本、研修	23
3	検索技術者検定3級試験対策セミナー	大阪	2016/09/03	西日本、研修	10
4	サーチャー講座21	大阪	2016/9/10-11	西日本、研修	16

5	サーチャー講座21	東京	2016/9/17-18	西日本、研修	35
6	会員限定INFOSTA新春セミナー「現役記者から学ぶ 伝わる情報発信のポイント」	東京	2017/1/20	研修	30
7	『コピペと捏造』出版記念 時実象一氏との懇談会	東京	2017/1/26	研修	7
8	維持会員限定セミナー「インフォプロのための企業評価のノウハウ」	東京	2017/1/31	研修	15
9	インフォプロのための著作権セミナー	大阪	2017/3/3	西日本	8
10	インフォプロのための著作権セミナー	東京	2017/3/13	研修	48

検索技術者検定対策セミナーは、東京、大阪の2地区で検索技術者検定2級および3級の受験対策セミナーを実施した。

一般セミナーは、4年ぶりに著作権セミナーを開催した。また、前会長執筆、出版委員会が監修した書籍『コピペと捏造』の出版記念企画を開催した。

維持会員向けのセミナーは2回開催し、参加者に情報を提供し、維持会員へのサービス向上を図った。

恒例となっている新年会とのセット企画の新春セミナーでは、図書館問題にも詳しいジャーナリストの猪谷千香氏に広報のコツについての講演とワークショップを組み合わせ、多くの参加を得た。

参加者数が少なかった企画も、その分密度の濃い内容となり、参加者の満足度は高かった。また、事務局移転に伴い、隣室となった専門図書館協議会との連携に向けて、両機関における研修事業の協力のあり方について検討を開始した。

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
1	2016-05-17	セミナー、見学会の企画検討	協会会議室
2	2016-09-30	セミナー、見学会の企画検討	JST東京本部別館会議室
3	2016.12.27	セミナー、見学会の企画検討	JST東京本部別館会議室
4	2017.02.07	セミナー、見学会の企画検討	JST東京本部別館会議室

2.3.2 シンポジウム (シンポジウム実行委員会)

INFOPRO 2016 は、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) との共催により、2016年12月1日～2日の2日間、JST 東京本部別館で開催した。特別講演 (「ビジネスに活かす統計学 - エビデンスに基づく価値創造 -」 西内啓氏 (データビークル))、トーク&トーク (「情報社会から融合社会へ」モデレーター: 林和弘氏 (NISTEP)、基調講演兼ファシリテーター: 曾根原 登氏 (NII)、パネリスト: 宮澤一洋氏 (ウェルネット)、奥村貴史氏 (国立保健医療科学院)、北村紗依氏 (武蔵大学))、および一般発表24件、3i研究会発表5件など、充実した内容となり、下記のとおり参加者があつた。より幅広い範囲からの発表を期待して、ポスター形式での一般発表である「ポスターセッション」の募集を実施し、9件の発表があつた。また、今回も情報関連企業・機関の協力を得て、展示コーナーで4件の展示、プロダクト・レビューを延べ9件開催した。

参加者数及び資料購入者数

	種別	分類	人数
A	シンポジウム	有料	109
		招待	116
		計	225
B	交流会		75
C	3i資料		49(冊)

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
1	2016-03-28	開催日、開催場所の決定、他	協会会議室
2	2016-06-10	特別講演の講師の選定、他	協会会議室
3	2016-07-22	トーク&トークのテーマ討議、他	JST東京本部別館2F会議室A
4	2016-08-29	プログラム案作成、他	協会会議室
5	2016-10-05	予稿査読、他	JST東京本部2F会議室
6	2017-02-08	総括、他	文京シビックセンター

2.3.3 検索技術者検定（試験実施委員会）

(1) 2016年度「検索技術者検定」実施結果

2016年11月27日（日）に検索技術者検定3級、2級、1級一次を実施、2017年2月12日（日）に1級の二次試験を実施した。受験者数と合格者数は、表のとおり。今年度も試験問題に関するトラブルはなく順調に実施された。今回初めて1級一次試験免除者が2次試験のみを受験した。

試験種別	2016年度			2015年度		
	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率
3級	558	468	84%	564	475	84%
2級	186	86	46%	159	70	44%
1級	13	5	38%	20	8	40%
合計	757	559		743	553	

試験会場：

- ・1級一次・2級・3級：東京1、東京2、名古屋、京都、大阪、福岡、北海道（計7会場）
- ・1級二次：東京
- ・3級(個別会場)：別府大学、昭和女子大学、皇學館大学、盛岡大学、近畿大学短期大学部、上田女子短期大学（計6会場）

2014年度から始まった新試験での3回目の試験実施であった。今年度、1級と3級受験者数は若干減少したが、2級受験者がやや増加したため、全体の受験者数は昨年度より微増した。

(2) 試験実施委員会の活動

試験実施委員会は、受験案内の作成、実施マニュアルのチェック、試験問題と採点の管理、解答例の公開、試験解説シリーズの編集等を実施した。また、合格を祝う会に委員長と担当理事が参加し、合格者と交流を図った。

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
147	2016-04-01	定例委員会	協会会議室
148	2016-05-20	定例委員会	協会会議室
149	2016-06-20	定例委員会	協会会議室
150	2016-07-25	定例委員会	協会会議室
151	2016-09-01	定例委員会	(株)ダイセル様 会議室
152	2016-10-03	定例委員会	文京シビックセンター会議室
153	2016-12-14	定例委員会	協会会議室
154	2017-01-11	定例委員会	協会会議室
155	2017-01-25	定例委員会	協会会議室
156	2017-02-13	定例委員会	協会会議室
157	2017-03-29	定例委員会	協会会議室

また、上記定例会以外に分科会との意見交換会を実施した（2017-02-28）

(3) 広報活動

司書課程、情報課程の大学をはじめ、ビジネス支援図書館、公共図書館へのポスターと受験案内の送付を行った。さらに、パンフレットを作成し、関連イベントや関連機関などでの配布を実施した。

(4) 試験対策セミナー

研修委員会および西日本委員会の企画で、テキストに基づく受験対策講習会を毎年実施しているが、今年も東京地区、大阪地区で開催され、当委員会はそれに協力した。詳細については「2.3.1 研修会・セミナー（研修委員会）」および「2.5 西日本委員会」の項を参照していただきたい。

また、昨年に引き続き、大学生向けに無料の3級対講座を8回実施し計155名が受講した。

(5) 「合格を祝う会」

「合格を祝う会」は、東京地区（2017/3/10）と大阪地区（2017/3/11）で開催、計32名の合格者が参加、先輩サーチャーの講演と情報交換を行った。参加者内訳は次のとおり。

	1級	2級	2,3級	3級	合計
東京	2	9	2	6	19
大阪	1	4	1	7	13
合計	3	13	3	13	32

(6) 試験問題の解答例公開

2015年度に引き続き、1級および2級の解答例を会誌に掲載した。検索技術者検定を受験したいと考える受験希望者にとって、受験しやすい環境を整備する目的で、試験問題解答例の公開を推進している。

(7) 問題解説シリーズ

検索技術者検定問題解説シリーズを、会誌『情報の科学と技術』66巻4号から11号まで計8回掲載した。

2.4 パテントドキュメンテーション活動(PD委員会)

1. 活動状況

1.1 委員会開催状況

2016/8/24 16:00-17:30 INFOSTA 会議室

2016/10/18 16:00-17:30 株式会社発明通信社会議室

2016/11/15 14:00-16:00 文京シビックセンター

1.2 活動状況

会誌2016年7月号に「特集＝特許訴訟を調べる」を担当、以下の記事を掲載

特集：「特許訴訟を調べる」の編集にあたって（パテントドキュメンテーション委員会）

最近の動きと特許調査または発明の開示との関係（重田 暁彦）

特許訴訟情報の取得（藤井 保夫）

知財審判・訴訟情報調査入門～無料入手可能なソースを中心に（酒井 美里）

米国特許訴訟判例の調査方法と判決文の読み方（倉増 一）

医薬・化学分野の判例情報の活用について（田中 康子）

2017の会誌特集「特許情報とAI」と決定、執筆者を依頼中、現在以下の執筆者が決定済

花王株式会社知的財産部 安藤 俊幸

昭和電工株式会社法務・知的財産部 田辺 千夏

株式会社FRONTEO 池内 敦司

株式会社アイ・アール・ディー 太田 貴久

株式会社NTTデータ数理システム 岩本圭介

日本アイ・ビー・エム株式会社 鈴木祥子

2.5 西日本委員会

(1) 委員会の開催(年6回)

西日本委員会は13名の委員で構成しており、主に西日本地区に拠点を置く会員に向けた講習会、会員交流会などを企画立案し、情報活動の支援サービスを行った。普及研修事業などの企画、実施計画、及びアンケート集計を含む実施報告・反省を中心に、円滑な事業運営をすべく、活発な意見交換を行った。しかし、今年度は5名（委員長を含む）の任期途中退任が発生しており、委員会のこれまで通りの活動を滞りなく行うことを最優先のミッションとして取り組んでいる。

回	開催日	主な議題	会場
179	2016/04/04	定例委員会	エル・おおさか
180	2016/06/27	定例委員会	エル・おおさか
181	2016/08/18	定例委員会	エル・おおさか

182	2016/11/04	定例委員会	大阪市中央公会堂
183	2016/11/25	定例委員会・じょいんと懇話会	大阪市中央公会堂
184	2017/02/06	定例委員会	大阪市中央公会堂

(2) 普及研修事業

①講習会 3件

(a) 「検索技術者検定3級」対策セミナー(1日コース)

- ・開催日、場所：2016年9月3日(土)、大阪産業創造館
- ・講師：森美由紀氏(梅花女子大学講師、西日本委員会委員)

(b) サーチャーター講座 21：検索技術者検定2級対策(2日間コース)

- ・開催日、場所：
大阪会場：2016年9月10日(土)、11日(日)、大阪産業創造館
東京会場：2016年9月17日(土)、18日(日)、機械振興会館
- ・講師：池田剛透氏(多摩大学)、岡紀子氏(佛教大学非常勤講師、西日本委員会委員)
田中邦英氏(近畿大学非常勤講師、西日本委員会委員)、
三村智子氏(D I C株式会社、元西日本委員会委員)

(c) 大学生向け3級対策講座(実際には西日本委員会主催でなく本部主催であるが、西日本委員会委員が講師をしたものを記載)

- ・10月1日(土) 佛教大学 13:00~16:00、講師：岡紀子氏、受講者人数：約25名
- ・10月8日(土) 別府大学 13:00~16:00、講師：森美由紀氏、受講者人数：約35名
- ・10月22日(土) 近畿大学 13:00~16:00、講師：森美由紀氏、受講者人数：約42名

②会員交流活動

「情報と人をつなぐ じょいんと懇話会」

西日本地区の情報検索能力試験合格者有志の会「インフォ・スペシャリスト交流会(I S - F o r u m)」との共催、アート・ドキュメンテーション学会、記録管理学会、情報活動研究会(I N F O M A T E S)、情報知識学会関西西部会後援により、会員・非会員を問わず情報活動に関心の高い人達の交流会を実施した。

- ・開催日、場所：2016年11月25日(金)、大阪市中央公会堂
- ・話題提供者：谷口忠大氏(立命館大学准教授)
- ・テーマ：「人工知能と記号創発ロボティクス～情報の意味とコミュニケーションについて考える～」

③著作権セミナー

- ・開催日、場所：2017年3月3日(金)、大阪市中央公会堂
- 講師：南亮一氏(国立国会図書館関西館)

④2016年度検索技術者検定「合格を祝う会」

- ・開催日、場所：2017年3月11日(土)、大阪科学技術センタービル

⑤「情報活動研究会(I N F O M A T E S)」の活動支援

情報活動に興味を抱く人材が相互に研鑽する研究会の活動を支援。

⑥INFOPRO シンポジウムでのポスター展示を実施した。

(3) 試験会場運営支援

京都会場(京都府中小企業会館)

3. その他委員会活動

3.1 表彰者選考委員会

2016年4月11日に開催、第41回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次の通り推薦した。

- ・情報業務功労賞 三澤一成氏
- ・教育・訓練功労賞 田窪直規氏
- ・協会事業功労賞 津山重雄氏
- ・名誉会員 太田泰弘氏 固武龍雄氏

3.2 著作権活動（著作権委員会）

委員会は1回も開催しなかった。複写権問題対策委員会当時の提案であった、会誌著作権に係わる規程の修整提案、管理団体との再契約交渉、の中で、会誌著作権に関する紙ベース複製の権利委託だけは、会誌経営委員会の規程修整に反映される運びとなった。著作権管理事業団体との再契約交渉については、ペンディングのまま残っており次年度の課題としたい。

3.3 広報活動（広報委員会）

2016年度もメンバー構成は、委員長1名、委員3名、担当理事1名で変更なく活動中である。INFOSTAの紹介と新入会員獲得のために2016年度もリーフレットをシンポジウムや図書館系のセミナーで配布した（医学図書館協会総会・学術集会、日本薬学図書館協議会総会、専門図書館協議会総会・全国研究集会、医学情報サービス研究大会、日本薬学図書館協議会研究集会、日本看護図書館協会第49回研究会、大学図書館問題研究会、特許検索競技大会、(株)サンメディアのユーザー会など）。またTwitterでの広報も運用内規を定め継続実施している。ホームページについては、2016年度までに構成案をまとめていたが予算上の都合からリニューアルは見送っており、現在のページの不具合や問題点の修正を進めてきた。これについては予算措置とともに各委員会は関係者の協力が不可欠であり、連携を深めるべく取り組んでいる。

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
1	2016-04-20	リーフレット改訂と配布、Webサイト、Twitter、委員会内規、	協会会議室
2	2016-07-07	リーフレット配布、Webサイト、Twitter運用内規	
3	2016-10-13	リーフレット配布と印刷スケジュール、Webサイト、Twitter、今後の活動についての意見交換	神保町三井ビル会議室
4	2017-02-01	リーフレット配布、会誌の活用、Webサイト、Twitter、協会冊子	

3.4 標準化活動（標準化委員会）

標準化委員会は、本年度は2016年8月31日に委員会を開催し、委員長を長田孝治から宮澤委員に交代し、以下の活動をおこなった。

(1) ISO/TC46 国内委員会に委員を派遣した。また ISO/TC37 国内委員会に当協会所属の会員が委員として参加した。また協会内に設置されている国内事務局へのサポートを行った。

(2) 本協会が作成した JIS 規格の定期見直しは、

- ・ JIS X 0701:2005 情報及びドキュメンテーション用語
- ・ JIS X 0901:1991 シソーラスの構成及びその作成方法

の 2 規格が対象であった。JIS X 0701 は国際規格が改定されていないため、そのままの形で「確認」とした。JIS X 0901 の対応する国際規格は変更されているが、現時点で対応する業務を日本で実施する機関などが見当たらない。一方 JIS 化されている規格は図書館や情報検索系の学部授業などで活用されている事例が見受けられるため、当面 JIS として残しておくことが用語などの標準化のために必要と考えられるとして「確認」とした。

また関連団体として確認のあった

- ・ JIS X 0412-2 言語名コードー第 2 部：3 文字コード

については、現在 ISO/TC37 の場で改定を検討しているが、現時点では現在の規格で問題はなく、この規格は広く一般に利用されているため、確認を希望した。

(3) ISO/TC37 ならびに ISO/TC46 国内委員会を紹介するホームページのメンテナンスを実施した。

4. 部会・研究会活動

4.1 日本オンライン情報検索ユーザー会 (OUG)

多くの分科会では年間を通して主査を中心とする例会を定期的で開催してきているが、全般的に会員の減少傾向は続いており、2007 年のピークから 20%以上収入減となっている。例会の開催回数や参加者数も同様の傾向が見られている。インターネット／ビジネス分科会は 2015 年 10 月以降休会している。

「INFOSTA カレンダー」に掲載されるようになった例会スケジュールをより早めに案内するなどして、新規会員の勧誘や参加者の増加策を講じてきてはいるが、反面、新規入会者の情報や責任者連絡先、収支状況などがきちんと共有化されていないと言う課題が残されている。各分科会の個別活動は、以下の通り。

4.1.1 化学分科会 (主査:鈴木理加氏。4 回開催)

①例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
351	2016-04-19	2015年度検索技術者検定 試験問題(2級後半、1級前半)を解く	協会会議室	3
352	2016-07-19	日経のデータベース	協会会議室	4
352	2016-09-06	化学関連のビジネス情報源	協会会議室	2
353	2016-11-15	ジー・サーチ社のデータベース	文京区民センター	6

②検索技術者検定 試験問題 2 級、1 級前半の解答例をホームページより公開。

<http://www.infosta.or.jp/kagaku/>

4.1.2 ライフサイエンス分科会（主査:西内 史氏 9回開催）

①例会開催報告

回	開催日	種別	テーマ	会場	参加者
340	2016-04-21	演習	① 「コ克蘭のシステムティック・レビューに関する企画」 ② 検索演題 2015年検索技術者検定1級試験問題より	文京シビックセンター	10
341	2016-05-19	講演	エンディベットライブラリアンについて	文京区民センター	9
342	2016-06-16	演習	30分でわかるメタ解析とレブマン演習	文京シビックセンター	11
343	2016-07-21	講演	「AMEDバイオバンク事業について」	文京シビックセンター	16
344	2016-09-15	紹介 演習	Smart Phone、Mobile時代のリモートアクセス-RemoteXsの紹介	JAPIC	13
345	2016-10-20	演習	システムティックレビューサーチに関する文献調査(索引を中心に)	文京シビックセンター	12
346	2016-11-17	講演	①UMLSから見た医学用語の可能性 ー医中誌の医学用語シソーラスを介してー ②人工知能が先進医療に貢献できるポイント	文京シビックセンター	20
347	2017-01-91	見学	話題提供「ライフサイエンス辞書」 見学会「Daiichi Sankyo くすりミュージアム」	Daiichi Sankyo くすりミュージアム	11
348	2017-02-16	紹介 演習	①「Arrow」の紹介 ②検索演題	文京シビックセンター	16

4.1.3 特許分科会（主査:桜井 規央氏 11回開催）

①例会開催報告

回	開催日	種別	テーマ	会場	参加者
389	2016-04-15	講演	経営層からの情報要求に応える	文京シビックセンター	30
390	2016-05-13	討議	特許調査で知っておくべきことと考えるべきこと	文京シビックセンター	15
391	2016-06-10	講演	人工知能AIによる特許調査・分析の今	文京シビックセンター	18
392	2016-07-8	講演	検索批評演習：特許第5071411号の「請求項1」についての無効資料調査	文京シビックセンター	17
393	2016-09-9	演習	特許分類（FI記号）の付与演習	文京区民センター	12

394	2016-10-14 ～15	演習	特許情報を活用した課題抽出・技術テーマ創出支援のためのワークショップ	報道事業厚生年金基金 ごうら山荘	10
395	2016-11-18	演習	再入門 I P C ・ F I	文京シビックセンター	11
396	2016-12-9	講演	「JDreamⅢ」の活用事例等の紹介	文京シビックセンター	12
397	2017-01-13	講演	特許庁における外国語特許文献調査の 取組みについて	文京シビックセンター	17
398	2017-02-10	講演	概念検索の実用性を考える	文京シビックセンター	18
399	2017-03-10	講演 討議	① 翻 訳 シ ス テ ム WEB-Transer@Enterpriseの紹介及び 活用事例 ②平成29年度OUG特許分科会活動方針、 テーマについての意見交換、全体討論	文京シビックセンター	13

4.2 専門部会 (SIG)

特定の分野または専門技術に関心を持つ会員が自由に参加し研さんを積む場として以下の5つのグループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画して活動した。いずれの部会でも新たなメンバーの加入が無いことを悩みの種として抱えている。

4.2.1 技術ジャーナル部会(会員企業:12社。コアパーソン:持ち回り。6回開催)

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

① 例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
1	2015-05-22	技報(特に掲載原稿) 質向上のための施策	文京シビックセンター	13
2	2015-07-31	技報発行後のトラブル対応 技報編集者に求められる資質とスキル、技報 編集者の育成	文京シビックセンター	11
3	2015-09-25	査読・校正の効率化 内規について	文京シビックセンター	10
4	2015-11-27	論文中の図版の取り扱いについて 定常送付分以外の冊子の活用・保管の状況	NEC関西ビル	14
5	2016-01-29	語句説明や注釈の付け方など掲載基準・編集 方法について 参考文献の書き方について	文京シビックセンター	10
6	2016-03-25	社内広報部門との連携(社内情報の共有、戦略 的広報活動) 技報編集者のモチベーションアップの取組 み 表彰制度について	IHI横浜事業所	17

4.2.2 パテントドクメンテーション部会(会員:6名 コアパーソン:桐山 勉氏 毎月開催)

① 例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
1	2016-04-19	(1) AI-Deep Learningの注目研究者の分析 紹介 (2) トピックス話題の提供 「特許マップ黄金律の見える化」の紹介	協会会議室	4
2	2016-05-17	(1) Word Cloud技術の紹介 (2) WPI記事の紹介	協会会議室	6
3	2016-06-21	(1) 2016年の研究テーマ討論 (2) 特許懇No.281トピックスの提供	協会会議室	5
4	2016-07-12	(1) INFOPRO発表研究のテーマ討議 (2) 情報専門家の社会的任務の紹介	協会会議室	5
5	2016-08-23	(1) 多様性ディスカッションの検討実施 (2) AIロボと似た誤答のトピックス提供	協会会議室	5
6	2016-09-13	(1) INFOPRO2016発表予稿集の討議 (2) 古代の日本の隣国との付き合い話題	協会会議室	6
7	2016-10-01	(1) 部会の秋の研究会(関ヶ原&大垣) (2) トピックス話題の提供	岐阜県池田温泉	5
8	2016-11-15	(1) Thomson ReutersとのWord Cloud研 究 (2) INFOPRO発表-A23の最終検討	文京区民センター	5
9	2016-12-13	(1) INFOPROシンポジウムの反省 (2) PATENTSCOPE新機能紹介	文京区男女平等セ ンター	6
10	2017-01-17	(1) 2017年の「年頭の想い」自由討議 (2) 2017年度の研究テーマの討議	文京区民センター	5
11	2017-02-14	(1) KTS社出願人辞書名揺遷のデモ紹介 (2) 人工知能と弁理士業務の記事紹介	文京区民センター	6
12	2017-03-22	(1) IPI-ConfEx2017の出張報告 (2) 日本語マニュアルの暫定版第1版紹介 (3) トピックス紹介	協会会議室	5

① INFOPRO2016において、1件の発表と2件のポスターを行った。

- ・【A23】多様性ディスカッションを通して俯瞰可視化図の作成研究
—モノリザ図と同じように瞬間意味一覧性があるのはどれか?—
(今まで14年間連続して部会活動の成果を報告、発表継続期間の記録を更新中)
- ・ポスター展示2件
 - 1) 当部会(パテントドクメンテーション部会)の活動紹介
 - 2) 特許情報専門家のための5大国際会議の紹介

② 協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページにて、活動状況を(毎年複数回更新して)継続公開した。

③外国専門誌による勉強:

- ・World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。
輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。コアパーソンがWPI専門誌のEditorial Advisory Boardに2014年10月から就任したので、勉強会がしやすくなった。

④特別研修会を2016年10月1日と2日(1泊2日)に関ヶ原合戦場—大垣城の歴史探訪を実施し、宿泊旅館(池田温泉)にてINFOPROシンポジウム発表原稿の討議を行った。

- ⑤外部知的財産団体への協力；INFOSTA-PD 委員会に実行委員会 1 名参加
 (会誌 情報の科学と技術 66(7)に、「IPI-ConfEX2016 および IPI-Award 受賞式 に参加して」を報告。)
- ⑥ メンバー間のトピックス情報交換
 米国 PIUG2016、EMW2016、EPOPIC2016、PIAC2016 in China、IPI-ConfEX2017 などの関連詳細情報をメンバー間で交換。これらのうち、米国 PIUG2016 に参加しプレゼン発表を行い、IPI-ConfEX2017 にも参加して一般プレゼンをしてきた。それらを当 PDG 部会にても詳細に報告した。
 その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加しているものの相互紹介など。
- ⑦ プロバイダーデモ勉強会の実施
- ・ Thomson Reuters 社の Word Cloud 技術の紹介とデモを 11 月に行った。
 - ・ (株)協和テクノサービス社の開発中の出願人辞書「名揺遷」のデモと紹介を 2017 年 2 月に行った。

4.2.3 分類/シソーラス/Indexing部会 (コアパーソン:山崎久道氏 11 回開催)

① 例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
1	2016-04-15	UDC-LCSH 変換作業	文京シビックセンター	14
2	2016-05-17	分類と件名の変換	文京シビックセンター	14
3	2016-06-17	UDC-LCSH 変換作業の展望	文京シビックセンター	12
4	2016-07-15	ISO25964 に関する論考の紹介	文京シビックセンター	10
5	2016-09-16	会誌特集「分類をみつめなおす part 2」 についての検討	文京シビックセンター	13
6	2016-10-21	JICST 科学技術分類の歩み、ISO25964 の評価	文京シビックセンター	14
7	2016-11-18	ISO25964-1 の改訂ポイントの提案	文京シビックセンター	12
8	2016-12-16	当部会の位置づけの再確認と 2016 年の活 動の反省	文京シビックセンター	12
9	2017-01-27	本の索引の研究	文京シビックセンター	10
10	2017-02-17	今後の研究テーマ、研究計画について	文京シビックセンター	11
11	2017-03-17	SIST13 の検討、索引の評価について	文京シビックセンター	10

②これ以外に、2016 年 11 月 19 日～20 日に、国立女性教育会館 (NVEC) において合宿を行った。参加者は当部会から 8 名、NVEC から 4 名。テーマは、NVEC 作成の『女性情報シソーラス』についての意見交換と改善提案のための議論など。

③今年度は、分類、シソーラス、インデクシング(索引)の三つの柱について、それぞれ、テーマを設け、部会を開催し、作業を行った。

4.2.4 ターミノロジー部会(部会員:9 名 コアパーソン:太田泰弘氏 6 回開催)

設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および

び実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催であるが、2016年度は6回実施した。

(1) 例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
75	2016-06-03	UTX用語集形式と用語集作成 講師：山本ゆうじ氏	協会会議室	8
76	2016-07-29	「ターミノロジー基本用語集」の作成、ISO/TC37の最近の動き	協会会議室	6
77	2016-09-30	「ターミノロジー基本用語集」の作成	協会会議室	8
78	2016-11-25	「ターミノロジー基本用語集」の作成	協会会議室	6
79	2017-01-13	「ターミノロジー基本用語集」の作成	協会会議室	5
80	2017-03-10	「ターミノロジー基本用語集」の作成	協会会議室	5

4.3 3i 研究会 (会員:30名 (東京15名、大阪15名))

3i 研究会は、会員自身の調査・解析スキルの向上と情報の新しい活用方法の獲得を目指し、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) との共催により、2013年8月に活動を開始し、現在は第4期の活動を行っている。第3期に引き続き大阪の会員を募集した。研究会会員は協会の会員及び非会員 (要会費) を問わないが、協会会員の年会費を割り引く事によって、会員数の増加にも貢献している。

(1) 研究会開催実績

第3期開催日

東京 (19名)

回	開催日	テーマ	会場
9	2016-04-21	研究会	科学技術振興機構
10	2016-05-19	研究会	科学技術振興機構
11	2016-06-16	研究会	科学技術振興機構
12	2017-07-06	最終報告会	科学技術振興機構

大阪 (15名)

回	開催日	テーマ	会場
9	2016-04-19	研究会	東洋紡(株)
10	2016-05-17	研究会	田岡化学工業(株)
11	2016-06-07	研究会	コーデンシ(株)
12	2017-07-06	最終報告会	富士通 (株) 関西システムラボ

第4期開催日

東京(15名)

回	開催日	テーマ	会場
1	2016-08-25	キックオフ	科学技術振興機構
2	2016-09-29	研究会	科学技術振興機構

3	2016-10-27	研究会	科学技術振興機構
4	2016-11-17	研究会	科学技術振興機構
5	2016-12-15	研究会	科学技術振興機構
6	2017-01-19	中間報告会	科学技術振興機構
7	2017-02-16	研究会	科学技術振興機構
8	2017-03-16	研究会	科学技術振興機構

大阪（15名）

回	開催日	テーマ	会場
1	2016-08-30	キックオフ	大阪工業大学
2	2016-10-11	研究会	大阪工業大学
3	2016-10-25	研究会	大阪工業大学
4	2016-11-22	研究会	大阪工業大学
5	2016-12-13	研究会	大阪工業大学
6	2017-01-19	中間報告会	富士通（株）関西システムラボ
7	2017-02-14	研究会	大阪工業大学
8	2017-03-14	研究会	大阪工業大学

(2) 第3期研究成果の発表

- ・最終報告会(2016年7月)
- ・インフォプロ発表(2016年12月)
- ・情報の科学と技術に論文掲載中
 - 大阪Aグループ：2017年3月号
 - 大阪Bグループ：2017年4月号
 - 東京Bグループ：2017年5月号
 - 東京Aグループ：2017年6月号
 - 東京Cグループ：2017年7月号

(3) 第4期活動の概要

① 第4期研究会募集ガイダンス（東京・大阪 2016/7/6）申込み締切（2016/9/30）

② 第1回企画会議（2016/4/21）

③ 研究会の開催期間と頻度

- ・2016年8月～2017年7月（月1回開催）

④ 研究体制と活動

・研究アドバイザー2名、東京が3グループ（A～C）、大阪が2グループ（A, B）で構成され、各グループにリーダーを置き、それぞれ研究テーマに沿った活動を行っている。昨年度に引き続きアドバイザーは、Landon IP GK シニアディレクター（日本事業統括部長）野崎 篤志 氏に依頼し、大阪研究会にはサブアドバイザーとして、アイ・ピー・ファイン株式会社 取締役 専務執行役員 知財コンサルティング部 部長 大藪 一 氏を招いた。月1回の研究会では、グループリーダー会議、グループ討議、全体討議が行なわれ、参加メンバー間の情報交換およびグループ間の情報共有化を図っている。また、2017年1月の研究会では、外部有識者（知財、コンサルティング、大学、事業開発）にもご参加いただき、研究成果の中間報告会を行った。また、2017年7月に最終報告会を予定している。

【研究テーマ】

東京：

A グループ：新規事業を提案するための分析手法の検討

B グループ：UX デザイン会社を買収した米国金融企業の分析結果に基づく、銀行ブランド力評価手法の確立

C グループ：住友化学による田中化学研究所への出資を題材とした知財デューデリジェンス実務の検討

大阪：

A グループ：AR・知育分野における新規事業創出

B グループ：自社技術を転用して新規事業参入を探る解析手法の研究

⑤調査・分析ツール

・特許、文献、ビジネス情報等のデータベース検索および分析ツールは、(株)ジー・サーチ、中央光学出版(株)、NRI サイバーパテント(株)、(株)プラスアルファ・コンサルティング、インパテック(株)、ワイズ特許サービス(株)、(株)ウィズドメイン、日経メディアマーケティング(株)の協力を得て 14 種類が利用可能となっている。

5. 調査・受託事業

5.1 ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会業務

国際標準化機構 (ISO) の「情報とドキュメンテーション」(TC46)及び「専門用語及び他の言語、情報内容の資源」(TC37)に関する国内委員会業務を、2013 年度より担当した。TC37、TC46 は、共に(株) 三菱総合研究所からの委託により実施した。

(1) ISO/TC37 国内委員会

本委員会(石崎俊委員長)の下に、SC1(専門用語作成の原則と手法)、SC2(用語辞書編纂方法)、SC3(用語、情報、内容の管理システム)、SC4(言語資源マネジメント)、SC5(翻訳、通訳及び関連技術)の5つのSC国内委員会を置き、総会(2016年6月、コペンハーゲン)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(36件)等を実施した。

本年度は、①文書コンテンツ標準化新規提案の準備、②制限言語の基本原則に関する国際標準の新規提案の準備、③制限言語の応用分野における国際標準の新規提案の準備を実施した。

回	開催日	会議名	会場	出席者数
1	2016-06-14	第1回本委員会	文京区民センター	19
2	2016-10-19	第2回本委員会	文京シビックセンター	18
3	2017-01-18	第3回本委員会	文京シビックホール	21

(2) ISO/TC46 国内委員会

本委員会(宮澤彰委員長)の下に、SC4(技術的相互運用性)、SC8(品質-統計及び性能評価)、SC9(識別と記述)、SC11(アーカイブズ/記録管理)の4つのSC国内委員会を置き、総会(2016年

5月、ウェリントン)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(37件)等を実施した。

日本からの①「国際図書館資料識別子に関する国際標準」の提案がSC9で受理され、②「デジタルアーカイブ利活用のための国際標準」の新規提案の準備を実施した。

回	開催日	会議名	会場	出席者数
1	2016-04-11	幹事会	協会会議室	4
2	2016-06-15	WG1委員会	協会会議室	8
3	2016-06-30	本委員会	協会会議室	13
4	2016-07-14	SC9委員会	協会会議室	10
5	2016-07-20	SC4委員会	協会会議室	9
6	2016-07-22	SC8委員会	協会会議室	10
7	2016-07-25	SC11委員会	協会会議室	7
8	2016-11-02	WG2委員会	国会図書館	4
9	2016-12-15	SC9委員会	文京シビック	4
10	2016-12-16	本委員会	文京シビック	4
11	2016-12-27	幹事会	協会会議室	4
12	2017-01-16	SC8委員会	文京シビック	10
13	2017-01-18	SC4委員会	文京シビック	11
14	2017-01-20	SC11委員会	文京シビック	8

6. 関連団体との連携

(1) 会員としての加入

- ・一般財団法人機械振興協会協賛会員(継続)
- ・国立研究開発法人科学技術振興機構賛助会員(継続)
- ・東京商工会議所賛助会員(継続)
- ・公益社団法人小石川法人会(2017年2月をもって退会)

(2) 他団体との共催

- ・情報プロフェッショナルシンポジウム(INFOPRO 2016)を例年通り国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)との共催で開催した。

(3) 他団体から後援を受けたもの

- ・情報プロフェッショナルシンポジウム(INFOPRO 2016)に対して専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報経済社会推進協会、日本図書館協会、国立国会図書館、情報メディア学会、日本特許情報機構、情報知識学会から後援を受けた。

(4) 他団体に後援、協賛したもの

- ・平成28年度専門図書館協議会全国研究集会(専門図書館協議会)(2016/6/23-24)
- ・特許検索技術大会2016((独)工業所有権情報・研修館)(2016/9/3)
- ・INFOMATES研究会(2016/8/26)

- ・知財情報フォーラム (IPI-Forum) (2016/7/12, 12/12, 2017/2/21)
- ・TP&D フォーラム 2016 (TP&D フォーラム実行委員会) (2016/8/29)

これらについては、会誌に広告を掲載する他、投稿があれば開催報告を会誌に掲載している。また当協会のビラ配布も適宜依頼している。

7. 事務局

事務局長 光富 健一 総括、ISO 関連受託事業、会誌編集委員会

担当 鈴木 吉之 各種委員会、INFOPRO シンポジウムの運営、検索技術者検定の試験実施、メルマガ発行、ホームページ維持管理

担当 木村かな子 経理

担当 廣田みどり 会誌編集管理

会員管理、購読者管理、書籍販売事務 (株) 毎日学術フォーラムに委託

会誌編集事務 昭和情報プロセス (株) に委託

シンポジウム運営サポート (株) ディック・アルファに委託

試験会場運営 一部 (株) 全国試験運営センターに委託

会計業務 アスト税理士法人 (AST) に委託